

思考力をはぐくむ授業の創造  
～論理的思考を促す指導過程の工夫～

大玉村立大玉中学校 (代表) 校長 鈴木 豊 教諭 岩野 貴夫

## 1 研究の趣旨

新学習指導要領は、現行の学習指導要領に引き続き、「学力の三要素」のバランスのとれた育成を図るとし、育成すべき資質・能力を「三つの柱」として再整理した。予測困難なこれからの時代に求められる力は、身に付けた知識・技能を活用し、他者と協働して人生や社会に生かそうとする力であり、そのための学習過程の質的改善を示しているのが「主体的・対話的で深い学び」というキーワードである。そこで、本校では、以下に示す仮説を設定し、平成33年度の新学習指導要領全面実施に先駆け、「三つの柱」を視野に入れたうえで、生徒の「思考力」をはぐくむ授業の在り方について、平成28年度より3年計画で研究を始めた。

他者との対話を通して、根拠に基づく自分の主張や意見をまとめる学習活動を充実させれば、論理的に思考する力を高めることができるだろう。

## 2 研究の概要

### (1) 平成28年度の研究より

- ① 生徒に思考させる手立てとして思考スキルを用いた。生徒や授業者にとって漠然としていた思考の姿を「比較する」「関連づける」などの具体的な動詞で示すことで、ねらいに迫るための思考の方向性を定め、さらに深く学ぼうとする生徒の主体性をはぐくむ手段として有効であった。

### (2) 平成29年度の研究

#### ① ツールミン・モデル

- 論理的思考とは、具体的事実によ、抽象的言明によ、何らかの根拠を基に主張や結論を引き出すことと捉え、論理的に思考するベースとして、「ツールミン・モデル」を用いた。「ツールミン・モデル」とは、データ（根拠）を示し、理由付けをして自分の考え（主張・解釈）をまとめるものである。このデータと自分の考えの間にある理由にあたる部分が論理的思考を必要とする箇所にあたる。

#### ② 研究の手立て

- 思考スキルと思考ツールを対応させることによって、思考の可視化を図った。前年度の思考スキルに思考ツールを加えることで、生徒自身が論理の道筋を自覚することができるようにするとともに、相手の論理を捉えやすくすることをねらった。
- ふくしまの「授業スタンダード」の「追究・解決」に焦点化し、対話の充実を図ることによって、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した。「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、個人の考えに変容が生まれる授業にする必要がある。対話を通して、自分の考えを再考する機会を持つことで、論理的思考を高めたいと考えた。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- ① 年間を通じて思考スキル・思考ツールを活用することによって、根拠に基づいて自分の考えを整理できるようになった。思考スキルの活用に対する意識を高めることができた。
- ② 思考が可視化されることで、自分の考えを論理的に整理し、さらに他者の論理も理解することができ、双方向性のある対話が生まれた。
- ③ 授業者は対話のコーディネートを重視するようになり、生徒は論理的に話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり深めたりするようになった。

### (2) 今後の課題

- ① 思考スキルや思考ツールを用いた授業構想を、年間を通じて計画的に行うことが必要である。
- ② よりよい対話のコーディネートの仕方を模索することが必要である。